

Close-Up

準備も大変だし、責任もプレッシャーも大きい。
それでも続けてこられたのは
灯りがつくり出す人と人とのつながり
それを実感できるからなのでしょね。

2002年12月に始まった「まつやま
灯明ウォッチング」も、今年2月の開催
で45回目を迎えました。05というのは
ちょっと微妙なのですが、昨年末に若草
幼稚園で小規模の灯明をやったのでそ
れが05回(笑)。よく「なぜ始めたの？」
という質問を受けますが、もともとは
故郷の福岡県で大学院生だった時に、

まちづくりの二環として「千灯明」とい
う伝統行事をヒントにした「博多部灯
明ウォッチング」をお手伝いしたことが
きっかけなんです。これは福岡市の中心
部「博多部」では空洞化が進んでいたの
で、町を歩いて、博多部が一つであるこ
とを実感してもらおうと地区内に灯明
を置くというものでした。その後、緑あ

つて松山大学にやって来て、2002年
には伊予銀行寄付講座「まちづくり学
講座」のプログラム委員を担当させて頂
くことになりました。その時に「博多部
灯明ウォッチング」の仕掛け人であった恩
師を講師として招いたのですが「松山で
も灯明をやったらどうか」と勧められて。
ちょうど松山城築城400年祭で松山
市が松山城に灯明を灯す「光とあかり
と城」というイベントを行うということ
だったので「ならば私たちはお城の麓で
一緒にお祝いしよう」となったんです。
灯明のいい点は作業が非常に単純な
こと。紙袋をくしゃくしゃにして、それ
を広げて、中に砂を入れる。砂の上に蠟

燭を立てて、火を点ければOK。子ども
にもお年寄りにもできるんです。でも、
それを6000個も7000個も用意
するには時間がかかる。作業をしなが
らみんながお喋りして仲良しになれる
んです。そうしたネットワークづくりこ
そ、まちづくりの基本ですから。とはい
え私自身は、毎回、始まるまでは腰が重
いんですよ。たくさんの方が関わるから
責任重大。今年などは昼からイベントや
模擬店も行ったのですが、規模が拡大す
るほどプレッシャーを感じちゃって。でも、
終わってみればやっぱり嬉しかった。来
年もよっころしよーと重い腰をあげて
やるんでしょね(笑)。



2月5日(日) 御幸キャンパスで実施した灯明ウォッチング。
02年度・03年度は「まちづくり学講座」、04年度・05年度は松
山大学教育研究助成プログラムの一環として取り組んでいます。



法学部 甲斐 朋香 助教授

Kai Tomoka

福岡県出身。九州大学法学部、同大学院法学研究科を修了後、2001年度から松
山大学法学部へ。「行政学」「政治過程論」「政治学概論」「基礎演習」などの
授業を担当。学内外のボランティア参加者が中心になって行われる「まつやま灯
明ウォッチング」の主宰者。